



発行責任者: 歯学部長 宮崎 隆, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



巻頭言

歯科病院長 榎 宏太郎

本年も残すところあとわずかとなりました。

光陰矢の如し、と言いますが、一年があつという間に過ぎてしまいます。

年末になりますと、その一年がどのような年であったか、皆様も様々なことを思い出しては、来る年への希望や夢を心に描かれるのではないのでしょうか。



思い出して次に備える、という行為は、医療の現場や教育においてもとても大切です。

多くの診療科では、症例報告会、症例検討会、リセッションセミナー、など呼称は様々でしょうが、診断や治療過程を各担当医が報告し合い、得られた知見を共有するという場が設けられていることと思われまふ。私が入局した当時は、先輩方の喧々諤々、激しい討論に、その後の人間関係を心配してしまうような場面もありました。診療への熱き思いに触れることが出来た、いい思い出です。

現在では、この情報のフィードバックという過程においても高い科学性が求められております。例えば、なぜ治療期間が長くかかってしまったのか、という疑問に対して、様々な情報から原因を考え、論理的に妥当な解を探さなければなりません。その際に述べられる意見には、データを基にした客観性が重要です。そして、その思考過程を、参加した若手の医局員が見聞することで、自身の診断能力の向上や治療手技選択の参考とすることが出来ます。

一方、工学の世界では、2002年に、失敗学という分野が生まれております。失敗に対して、原因を究明し、同じ失敗を繰り返さないように防止策の策定や知識を共有する学問とされており、畑村洋太郎・東京大学名誉教授が提唱しました。現在では、ご存知のように、医療安全の分野にも応用されております。1) 原因究明 (Cause Analysis), 2) 失敗防止 (Failure Prevention), 3) 知識配布 (Knowledge Distribution) からなる概念は、とてもわかり易いものです。

来年は、我々の症例報告や検討会においても、自画自賛的な報告ばかりではなく、悩んだ症例をこのような三つの観点から整理してはいかがでしょうか。

臨床において、『失敗』という言葉を実易に使用することは憚られます。その代わりrefractory/intractable『難治』などの言葉を用いて注意を喚起するのもいいかもしれません。なぜだろう、と思う機会を若手と共有できれば、新たな研究のテーマも生まれます。

省みるという行為は、未来を明るくすることに繋がります。

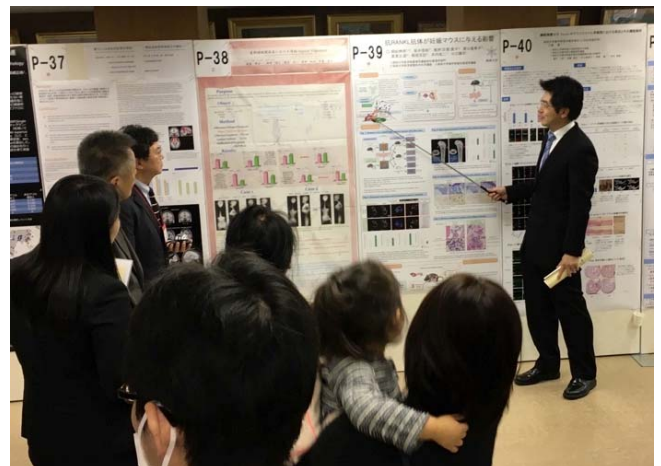
昭和学士会が開催されました

昭和大学学士会運営委員

学術部担当 高見正道

第63回昭和大学学士会総会が平成28年11月26日に昭和大学旗の台キャンパス 1号館にて開催されました。開会に先立って行われた一般講演および甲・乙学位論文演題発表では、50演題中20演題が歯学部/歯学研究科によるもので、会場は終了時刻まで若い研究者たちの活気で溢れていました。その後、7階講堂において小出良平学士会会長が開会の挨拶を述べられ、年次報告と学術奨励賞の授与が行われました。今回は、歯学部の古屋七重先生(口腔リハビリテーション医学部門)を含め、医学部、保健医療学研究科および横浜市北部病院に所属する計7名に奨励賞が授与されました。

続いて、吉田 仁教授(医学部内科学講座消化器内科学部門)、野部浩司教授(薬学部生体制御機能薬学講座薬理学部門)および上條由美教授(保健医療学研究科)による教育講演が行われ、満席に近い会場から多くの質問がなされました。最後に甲・乙学位論文演題発表証明書が大学院生に授与され、下司映一学士会副会長による閉会の挨拶をもって盛会のうちに会を閉じました。



文科省 IT 連携「超高齢社会に対応できる歯科医師の養成」公開シンポジウムが開催されました

歯学教育学部門 片岡 竜太

「超高齢社会で活躍できる歯科医師の養成」5年間のプロジェクトに岩手医科大学と北海道医療大学と関連する9歯科医師会と一緒に取り組み最終年度を迎えました。この取組の成果を公開するために、第3回公開シンポジウムを北海道医療大学が主催し、平成28年11月19日(土)に北海道自治労会館で開催しました。3連携大学と連携校以外の大学、歯科医師会などから100名近い参加者があり、昭和大学からは宮崎学部長、美島教育委員長、佐藤教授、弘中教授、北川准教授、内海講師ら9名が参加しました。

文部科学省高等教育局大学振興課の大学改革推進室長 井上 睦子様から、1)地元歯科医師会と連携・協働することで実践力を高めていること、2)授業開始時のプレテストや終了時のポストテストなどを通じて到達度評価と質向上を着実に実施していること、3)VPなどITの活用により習熟度評価や教材改善システムも機能しており、継続・発展の条件が整ってきていることが評価されているので全国の大学などへの波及に取り組んで欲しいという挨拶をいただきました。次に基調講演として北海道大学歯学部 高齢者歯科学教室の山崎 裕先生に「超高齢社会に必要な歯学生教育」というタイトルで、口腔乾燥症、味覚障害、カンジダ症、舌痛症、漢方医学などについて、大変分かりやすく講演をしていただきました。次に札幌歯科医師会地域医療担当理事 高橋一行先生に「超高齢社会における歯科医師会の取組み」というタイトルで、歯科医師会の主な取組と今後歯科に求められる在宅歯科医療について、社会のニーズが伝わってくるお話をいただきました。

シンポジウムでは、越野 寿教授(北海道医療大学)が司会を務め、片岡竜太教授(昭和大学)による本事業の全体像とアクティブラーニングなどの成果の紹介に続いて、3大学と9歯科医師会が協働して作成したIT教材を3大学の学生が学んだ「共通部分」と各大学独自の臨床実習、地域医療実習などの「独自部分」について、3大学から報告がありました。本学からは宮崎学部長と美島教育委員長、岩手医科大学からは三浦学部長と近藤教授、北海道医療大学からは齋藤学部長と豊下講師が発表し、北海道医療大学の学生からの意見も含めて活発な討議が行われました。本学では、学部連携病棟実習をはじめとするチーム医療教育、地域連携医療教育、岩手医科大学では地域医療体験実習、介護体験実習、北海道医療大学では多職種連携模擬病棟実習、訪問診療実習、施設実習、学外実習(一般開業医、病院歯科)を充実したものにするためにIT教材を活用しているこ

とが報告されました。

シンポジウムの前にITを活用した教育センター会議が開催され、来年度以降も本事業を継続し、年1回の「ITを活用した教育センター会議(対面)」と必要に応じて随時スカイプを活用した会議を開催することになりました。Skypeを活用した3大学の学生間交流は、本学では佐藤教授が担当されていますが、学生から好評で、学会発表も含め学生のモチベーションが高まるので、継続することになりました。

シンポジウムの後は北海道医療大学の浅香正博学長をはじめ北海道医療大学、岩手医科大学の教職員の方々と本取組の継続を誓い、さらなる発展を祈りつつ懇親会が開かれました。最後になりましたが、忙しい時期にも関わらず参加していただいた各大学ならびに歯科医師会の先生方、そして本シンポジウムの準備、運営にご尽力いただいた北海道医療大学の教員および事務関係者ならびに協力IT企業に心から御礼申し上げます。



大学院春期Ⅰ期入試が行われました

大学院運営委員長 山本松男

12月3日に標記の大学院入学試験が、外国語(一般英語および科学英語)および専門科目について実施されました。12月21日に合格発表があり、一般選抜7名が合格しました。春季Ⅱ期入試は、平成28年2月18日(土)に行われます。出願期間は平成28年1月10日(火)～年2月1日(水)です。今年度の春季Ⅰ期入試は、昨年度(一般選抜8名と比べて受験者数が減少しましたが、春季Ⅱ期入試で優秀な大学院志願者が多数受験してくれることを願っています。

行事予定

広報委員長 中村 雅典

1月14日(土)15日(日) センター入試

1月25日(水) CBT

1月26日(木) 選抜Ⅰ期・センター利用Ⅰ期入試

武重優秀クラブ賞・優秀クラブ賞表彰式が開催されました

学生部長 上條 竜太郎

武重優秀クラブ賞は、武重千冬学長のご逝去に伴い、武重家からの寄附金を原資として設けられた顕彰制度で、本学の名を宣揚せしめ、かつ最も優秀な成績を上げたクラブに贈られます。平成28年11月1日、「平成28年度(第16回)昭和大学武重優秀クラブ賞・優秀クラブ賞表彰式」が、50周年記念館で開催されました。小出学長の挨拶、小口理事長の祝辞に続き、宮崎昭和大学学生部長より各賞受賞クラブと主な業績が紹介されました。今年度は武重優秀クラブ賞がバスケットボール部に贈られました。また、学長賞をはじめとする優秀クラブ各賞の表彰も行われ、歯学部関連では、歯学部長賞を歯学部薬学部卓球部が受賞しました。本年度は歯学部学生の活躍が顕著で、バスケットボール部、剣道部(薬学部長賞受賞)、囲碁将棋部(学生部長賞受賞)においても主力として活躍しました。続いてグリークラブによる校歌斉唱・応援歌、応援指導部による応援エールをもって閉式となりました。



D3地域連携歯科医療実習と報告会が実施されました

地域連携歯科学部門 丸岡 靖史

〈地域連携歯科医療実習Ⅱ〉は、平成26年度から必修化され、10月から12月にかけて、3期に分けて約100名の歯科医師会の先生に学生の指導をお

願っています。今年度12月15日に報告会が実施されました。当日は、宮崎歯学部長の挨拶の後、実習の総括、10時からは東京都歯科医師会高橋哲夫会長の講演が行われました。その後学生は、各班に分かれてPBL室で各自作成した発表スライドのブラッシュアップを行いました。発表会では、指導歯科医院の先生も参加していただき、10数名の学生がスライドを用いて発表、討論を行いました。

実習終了後、約30人の指導歯科医院の先生との意見交換会が行われました。学生のモチベーションの向上、コミュニケーション教育の場、将来の歯科医師像を考える場になっているなどの実習の意義を多くの先生が感じられており、かなり情熱を傾けて指導していただいていることがわかりました。その後入院棟17Fのタワーレストラン昭和でさらに懇親を深めることができました。

今年度は、1年時〈地域連携歯科医療実習Ⅰ〉、3年時〈地域連携歯科医療実習Ⅱ〉を履修した学生が5年生となり、病院歯科実習(昭和大学病院・藤が丘病院・烏山病院・横浜市北部病院・江東豊洲病院)で周術期口腔機能管理を含めて急性期・回復期での歯科の対応や多職種医療連携を学習し、さらに〈地域連携歯科医療実習Ⅲ〉で在宅歯科医療での慢性期の対応、地域包括ケアに関して学習しております。〈地域連携歯科医療実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ〉の遂行には、教育連携協定を締結している山梨県歯科医師会・東京都歯科医師会・神奈川県歯科医師会・各地区歯科医師会の先生に大変お世話になっております。今後とも歯科医療の発展、将来の人材育成のため、学生教育へのご協力をどうぞ宜しくお願い申し上げます。



避難訓練が実施されました

口腔微生物学講座 桑田 啓貴

11月21日(月)

16時、東京直下型の地震災害発生を想定した避難訓練が実施されました。実際の地震に遭遇した際には被害を最小限にとどめ



るためにも常日頃よりの訓練が重要です。手順は例年通り、地震が発生した場合の建物倒壊の危険性を避けるため、屋外に避難するという設定で施行されました。全館放送により地震発生のアラームがなり、初期対応として各自揺れが治まるまでは机等の下に入り、落下物から身を守る対応が指示されました。さらに、火元などの確認やドアを開けるなどの避難経路の確保が行われ、その後、地震の揺れがおさまった事を想定し、各員の所在地に従って、中庭や上條講堂前などへとそれぞれ避難を行いました。避難場所に到着後には、各部署より選ばれた報告者が避難場所での避難者数を確認し、避難前の在室人数と避難者数を本部に報告し、無事訓練が終了しました。東京消防庁からの消防車も参加しています。本避難訓練は毎年一回施行されており、この機会に初期対応方法や避難経路の再確認がなされました。私も、兵庫

県に在住していた際に、阪神淡路大震災を経験していますが、実際の地震への対策として有意義なものがあったと思います。



日本口腔組織培養学会学術大会でベストプレゼンテーション賞を受賞しました

大学院3年(障害者歯科学専攻) 馬目 瑤子

平成28年11月18日、石川県金沢市にて第53回日本口腔組織培養学会が開催されました。本学会は口腔組織・細胞培養という研究手法を共通項とし、臨床系や基礎系の多彩な研究者が集う学会です。様々な分野を専門とする方々の発表を見ることができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。私は「TLR7リガンドのR848は悪性黒色腫の骨浸潤を抑制する」の演題で口頭発表を行いました。発表は大変緊張しましたが、幸運にもベストプレゼンテーション賞を受賞することができました。これまでご指導下さった

障害者歯科学部門の船津敬弘准教授、口腔生化学講座の上條竜太郎教授と鈴木大助教、そして多くの先生方と関係者の方々に心より感謝申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

日本口腔組織培養学会学術大会でベストプレゼンテーション賞を受賞しました

大学院3年(口腔生化学講座) 金子児太郎

平成28年11月18日、石川県立美術館において第53回日本口腔組織培養学会が開催され、参加させてもらいました。本学会は口腔組織・細胞培養という研究手法を共通に、臨床系および基礎系の多彩な分野の研究者が一堂に集う学会です。私は「新規内因性シグナル分子8-ニトロ-cGMPは骨の伸長を促進する」という演題で口頭発表を行いました。発表はとても緊張し、不恰好な形になってしまいましたが、幸運にも平成28年度ベストプレゼンテーション賞を受賞することができました。身に余る評価を頂き、大変恐縮しております。これまでご指導下さった口腔生化学講座の上條竜太郎教授と宮本洋一准教授、そして多くの先生方や練習を手伝ってくださった方々に、この場を借りて心より感謝申し上げます。



受賞

広報委員長 中村 雅典

馬目 瑤子 (第53回日本口腔組織培養学会
ベストプレゼンテーション賞)
金子児太郎 (第53回日本口腔組織培養学会
ベストプレゼンテーション賞)

編集後記

口腔生化学講座 吉村健太郎

編集が年末にかかり、発行が遅れましたことをお詫び申し上げます。お忙しい中、ご寄稿下さりありがとうございました。平成29年が皆様にとって幸多い一年になるよう心よりお祈り申し上げます。